

持続可能な地域づくり「あおもり創造学」プロジェクト事業

1学年「私の探究活動」発表会

2月2日（木）1学年「私の探究活動」発表会が行われました。自分の興味関心が社会とどう繋がるのかを考え、文献を調査しながら、深めたい問いを立ててきました。またイベントに参加したり、実際に大人の人に意見をもらうなど、体験や冬季休業中の活動を通してどのような気づきや発見があったかを発表しました。

ここで、「あおもり創造学」成果発表会に、本校代表として発表した生徒の内容を紹介します。

12HR 石澤 広之助 さん

①発表タイトル

弘南鉄道を盛り上げよう

②深めたい問いとその背景

2021年度の経常収支が11年連続、過去最大の1億9836万円の赤字と発表。弘前市周辺の主要な公共交通機関でありながら、利用者減少を理由に廃線の危険性があるのだ。そこで、どのような対策をとると利用者が増加するのか、考案したい。

③私の提案した対策（取り組み）

「弘南鉄道に乗ってクーポン券を貰おう」内容は以下の通り。

- 1、弘南線・大鰐線の往復券を購入
- 2、購入時に500円の割引券を発行
- 3、弘南鉄道に乗車し弘前市周辺の加盟店で使用可能

これを観光客が多く集まる（さくら祭りやねぶた祭りなど）期間限定で実施する。クーポン券を発行することで、利用者が増加し、弘前市周辺の経済が活性化、そして弘南鉄道と地域との良好な関係というサイクルが生じることが狙いである。

④問いを深めるために行動したこと

弘南鉄道の営業課の方とお話をした。

Q、現在行われている対策は？

A、今は、「わにサポ」というものを行っているがあまり利用者が多くないのが現状である。

Q、私のクーポン券発行の案について、いかがか？

A、観光客に焦点を合わせるのはいいと思うし、弘南線でも実施するのはいいと思う。

⑤活動を通じた新たな気づき、さらに深めたい問い

弘南鉄道の利用者は通勤通学が目的の利用者が大半であることが分かった。ならば、JRのリゾートしらかみのように乗って楽しむことを目的とした列車を走らせることもいいのではないかと気づいた。

まずはクーポン券発行を実現するために、さらにいろいろな方々と話をしていきたい。そして今後は、弘南線と大鰐線との比較を重視しながら、利用者増加に向けて探究を進めていきたい。

消費者フォーラム in HIROSAKI に参加しました

1月21日（土）、弘前大学で行われた「消費者フォーラム in HIROSAKI」に大学生や中学生に交じて、本校から1年生1名、2年生8名が参加しました（2名がステージ発表、7名がポスター発表）。このフォーラムでは、1年生は家庭科のホームプロジェクトの内容を、2年生はSakura Timeでの各自の探究活動内容を発表しました。発表に向けて弘前大学教育学部の「総合的な学習の時間の指導法」の受講生160名から助言をもらいながら、内容をブラッシュアップさせることができました。人と関わり自分と向き合い、何ができるのか考え地域に発信することで、学びが深まっている様子が見られました。



【生徒の気づき(振り返りより)】

自分には想像できなかった探究の繋がりを大学生の方が身近な視点で教えてくださり、自分一人で内気に探究しちやいけないと学んだ。

その分野で活躍する大人は本物の知見を持っている

あおもり環境人材育成事業

に参加しました

青森県では環境保全活動や環境教育・環境学習の担い手となる若者の育成に力をいれた「あおもり環境人材育成事業」が行われています。本校ではこの事業に弘前大学の先生方と連携して参加してきました。参加したのは、環境問題や持続可能な社会の実現などの分野の探究活動を行っている生徒たちです。今年度は3つのイベントが行われ、この分野で活躍している経験豊富な本物の知見を持った大人たちと意見を交わすことができました。これらを通じた生徒の様子を紹介します。

環境活動ネットワーク交流会2022

高校生や大学生、環境団体、事業者が集まり各自の取り組みや環境情報を共有しました。またいくつかのグループになって、環境活動を活性化させる改善策や取組案を考ました。本校生徒が積極的にグループ代表となり、グループの意見を発表していました。



村上敦氏との意見交換会

環境コンサルタントの村上敦氏（株式会社ニセコまち取締役）をお招きし、SDGs や環境問題に関わる探究活動を行っている生徒7名と探究内容について意見交換をしました。実際に経済・社会・環境を軸とした持続可能な社会づくりに取り組んでいる専門家の視点でアドバイスをいただき、生徒には大きな刺激となりました。

【生徒の気づき(振り返りより)】

○主観的でなく、広い視野を意識し



ていろいろな方向からアプローチしていく必要がある。人に実際に会いに行く事で新しい気づきを得られる。

○村上さんのアドバイスを聞いて、自分の課題に対しての視野の広さが限定的であったということがわかり、歴史や今の環境に対してどう影響しているかなどもっといろんな分野に目を向けて調べていきたい。

岩手県紫波町視察

岩手県紫波町は「循環型+協働+公民連携」をキーワードに、時代と地域の変化に対応しながら地域課題型のまちづくりを行っています。「まちの再編成」の取り組みについて、生徒8名が弘前大学の教員とともに現地に赴き、紫波町産業部・企画総務部、地域の企業の方々から講義を受けたり、フィールドワークを通しながら、まちづくりについて理解を深めました。

【生徒の学び(振り返りより)】

環境や地域の問題に行政だけでなく民間の企業や組織、人が積極的なのが印象的でした。特に新しい街づくりは行政が引っ張っていくものと思っていたのでプロジェクトの大部分を民間に任せている事には驚きました。また、日詰商店街の話から若い人が行動することや新しい街づくりと歴史を両立させることの大切さを知ることができました。



岡部のつぶやき・・・

改めまして、Sakura Time 主担当の岡部です。教科は理科（物理）です。私の高校時代は総合的な探究の時間はなかったので、「気象予報士とってみたいな～、じゃあ理学部の地球科学系に進めばいいかな～」という軽い感覚で進路を決めました。でもこの立場になって、みなさんの探究を見て、「私がもし今高校生なら、どんな探究するかな～？防災（豪雨災害）のことをテーマにやるかもな～」と思うときがあるのです。もし高校生の私が、豪雨災害の探究を進めていたら、地球科学ではなく、土木工学の道を選んでいたかしれないとも思うのです（教員にならなかったかもね・・・）。みなさんは、自分の進路をじっくり考える、自分を見つめる時間を週1時間与えられているんですね。とってもうやましいです。Sakura Time という貴重な時間を、大切にしてくださいね。